

横尾議員 それでは、「大型事業が続くなか今後の財政政策は」について質問します。三つの事業の予定がありますが、一つ目は役場新庁舎・消防新庁舎建設事業で、総事業費が26億5,900万円、二つ目は、し尿処理施設の整備として、事業費が20億円から30億円程度が想定される事業、三つ目が、次期ごみ処理施設事業費で約62億円となっています。役場新庁舎建設事業以外では、3町での負担事業ではありますが、それぞれ早急に対応すべき案件であると考えます。特にし尿とごみについては町民生活に直結するため、インフラ整備の充実を図らなければならないと考えます。これらの事業費がかさんでくると、本町の財政規模に照らし合わせても不安になってきます。今後の財政政策はどのように取り組むのか、見解をお聞きします。また、本町は貯金も少なく、これらの事業費を借入し返済が始まると今の状況では、財政が苦しくなってくるのではないかと考えてしまいます。歳入増もなく各事業の返済が重なってくると財政が悪化し、しかも短期の償還期間では、適切な公共サービスの提供や債務の返済に支障をきたす恐れがあります。財政の健全性を確保するためには、歳出の見直しや歳入の増加策を検討する必要があります。町の見解をお聞きします。

喜田議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 横尾議員の「大型事業が続く中、今後の財政政策は」のご質問にお答えします。まず、大型事業に対する財政対策ですが、大型建設事業に対しては、地方債を活用することで、将来にわたり財政負担の平準化を図るとともに、役場新庁舎、消防新庁舎建設事業では緊急防災・減災事業債（交付税措置7割）、し尿処理、次期ごみ処理施設の整備には過疎対策事業債（交付税措置7割）といった交付税措置の有利なメニューを活用することで、一般財源の負担額を軽減してまいります。また、実質単年度収支が黒字である年度につきましては、基金の積立を行うことができおり、平成30年度末残高、12億5,194万6千円と比較して、令和4年度末残高は、2億7,051万円増加し、15億2,245万6千円となる見込みです。地方債の返済につきましては、これまで計画的に積立てた基金をもって充てることで、財政の健全性を維持してまいります。次に、財政の健全性を確保するための取り組みについてお答えします。歳出の見直しについてですが、今後は、今まで以上に厳しい予算編成が見込まれることから、引き続きすべての事業について内容や効果等を再度精査し、事業の取捨選択、優先順位を

勘案し、最小限の実施に努めてまいります。特に、大型事業による支出負担が増加すると見込まれる年度におきましては、財源不足を補うことのできない事態とならないよう、大型事業を含む町行政全体の建設事業計画を十分に熟慮してまいります。歳入の増加策につきましては、町税等自主財源収入の徴収率の確保、ふるさと納税の拡大、国県の補助制度等の活用を充実してまいります。以上です。よろしくお願いいたします。

喜田議長 横尾議員。

横尾議員 今の町長の答弁にありました、私、これまでも質問してきました、ふるさと納税に関しては、拡大をしていくということをお聞きしました。所信の中でも通告の表明がありましたので、ぜひ、期待をしたいと思います。こればかりは、前にも例をあげましたが、芸西村では30億円ほどの返礼品の額がありました。これだけの額が牟岐町の予算規模に匹敵するほどの額がふるさと納税で賄えるということにつきましては、とてもうらやましく思っていましたので、今後、いっそう進めてほしいと思っています。それと、歳出削減案として、私、議会人としての私見ですが「役場新庁舎の整備方針の考え方」の方です。この17ページの(2)議会の考え方の三点目に・大会議室、災害対策本部室としても利用できる平土間型(移動席)議場の採用も検討します。とあります。是非ともこの方向で進めていただきたいと思っています。なぜなら本議場の年度内利用日数は8日程度であり、専用議場として管理運営していく上では設備も含め維持費等を考慮するとデメリットであり、多目的な会議室でよいのではないかと、今後の人口ビジョンを考えてもコンパクトな庁舎で良いのではないかと思います。また、冒頭に樫谷議員の質問にもありましたが、この建設基本計画の中にありますが、町長もおっしゃいましたけど、各基準による面積算定というのが、議事堂に関して35㎡かける議員定数、牟岐町の場合、8人ですが、280㎡ほど本質面積として載っていますが、こういう面積算定が実情を踏まえての議場の在り方という形で捉えていただきたいと思っています。また、今後、大型事業については、各事業債、有利な事業債を使って、造っていくわけではありますが、健全な財政政策をお願いして、私の一般質問を終わります。